

平成28年12月16日

能美市議会議長
北野 哲 様

教育福祉常任委員会
委員長 倉 元 正 順

教育福祉常任委員会行政視察報告書

- 1、期 間；平成28年11月8日（火）～10日（木）
- 2、視察先；① 子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」
② 社会福祉法人米沢仏教興道会 興道南部保育園
③ 幼保連携型認定こども園 町立ひまわりこども園
- 3、目 的；保育園の運営における課題と躰・教育について
- 4、参加者；倉元 正順、近藤 博、山口 慧子、東 正幸
田中策次郎、仙台 謙三、坂井 俊之健康福祉部次長兼子育て支援課長

視察目的

メディアの普及、価値や親の労働環境変化、核家族化など社会の急激な変化により、親の常識力や教育力に問題があり、子どもに対する躰・教育が課題となっている。

国づくり、町づくりは「人づくり」であり、昨年の道德問題に引き続き保育園や児童館での運営課題や躰・教育についての今後の指針づくりを目的とする。

11月8日（火曜日）

★ 子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」

伊藤千佐子館長より、「のびすく仙台」は市民からの要望であり、構想・運営までを素人の主婦だけでNPOを立ち上げた苦労話をしていただきました。また理論ではなく、体験談として下記の事業説明をしていただきました。

年間約3000万円の補助金、常勤5名、非常勤12名の計17名で運営。但し、1名は経理担当。

① 地域での子育て活動の支援

- ・地域で活動している子育て関係団体に対する企画援助やグループづくりのお手伝い、リーダー育成研修などを行っている。子育て支援センターや児童館などとも連携して、地域での子育て支援活動をサポートしている。
- ・子どもの遊び場としての提供を始めたが、支援の対象は主として親の相談相手であり、内容は夫婦間の揉め事など、離婚問題が多い。

② 一時預かり（有料）

- ・短時間の託児（生後6か月から未就学児）
- ・理由は問わない。
- ・1時間600円（他は3歳以上1,200円）
- ・3人の保育士で定員9名であるが、12、13人になることが多い。1カ月では約50人位のお断りをしているのが問題点である。

③ 情報提供

- ・行政、市民グループ、育成サークル、幼稚園、保育園など仙台市内の子育て情報を提供している。各館毎の発行している「つうしん」や「チラシ」を置いてある。しかし、情報はネットからが70～80%で、活字は少ない。

④ その他

- ・今後は地域連携、障害児対策が課題である。
- ・父親対策。助産師に対し、8名の定員で、料理教室（3カ月に1回）、プレパパ教室、新米パパ・ママ教室(毎月)
- ・行政とNPO運営の違いには一長一短があるが、行政は3年で異動してしまうが、NPOは10年頑張っており、個人としての信用・信頼ができることが一番大きい差である。

11月9日（水曜日）

★ 社会福祉法人米沢仏教興道会 興道南部保育園

- ・米沢市に社会福祉法人米沢仏教興道会が6園あり、金沢市と同じく私立の保育園や幼稚園が多い。
- ・平成26年2月に新園舎が落成し、定員が100名とし、4月より新たな支援として「病児保育」を始めた。保育園と病児保育を同一場所で実施することに対する別入口や完全分離の説明がされた。

■佐藤和子園長より事前質問を中心に説明を受けた。主な点を下記に列挙した。

- ・子どもは内に「のびる力」を秘めている。大人に愛され、必要な環境を与えられることにより「見る」、「聞く」、「話す」が芽生え育つ。それは「考える」を「つくり出す」力の基となります。園と保育者、親と親、地域社会の人々と「支えあい」、「共に育ちあう」保育者（大人）であることが望ましい。
- 能美市のいじめ勉強会に出てくる安心、安全、安定が子どもには必要であることを学びました。

- ・園目標として、①心身ともに、丈夫で元気にすごす。②よく遊び、よく見て、よく聞き、よく考える。③友達や周りの人と、協力したり表現したりすることを楽しむ。一の3点を掲げています。具体的には、身の回りが自分でできるように自立の芽生えを養う。毎日のリズム運動を行う。畑作りから始めて食育をしている。
- ・毎日お釈迦さまに手を合わせることにより、優しさや慈しみの心が養われている。
- ・母親対策は、こうしたらよいのではないですかというぐらいで、断定はしていません。
- ・毎月何かの行事が行われており、特に特徴的なものは8月の「星空コンサート」です。

11月10日（木曜日）

★ 幼保連携型認定こども園 町立ひまわりこども園

東京学芸大学と包括連携協定を結び、子どもの学力、体力と教員の指導力向上に取り組むということで一番訪問したかった保育園である。

最初に、土屋重憲教育長より概略の説明があり、猪苗代町教育委員会子ども課課長兼ひまわりこども園長の関和清智様から説明を受けました。

- ・平成28年4月1日に開園したばかりの木造平屋建て、自然エネルギー対応の地中熱利用ヒートポンプ冷暖房システム（国よりの支援あり）を採用している。
- ・4幼稚園と1保育園が統合した認定保育園であり、定員300名（現在280名）ということで、建物の大きさに圧倒されました。特に、体育館というか遊戯室の大きさは目を見張るものでした。運動場も大きく、広いために運動会は何とかできたが、反対に、発表会では人数が多すぎることに、遊戯室が大きすぎて、一度にできそうもないということで、3回に分けて行う予定であるという悩みを抱えていました。
- ・教育・保育に基づく行事は目白押しであり、その中でもユニークなのは、「駅員とのふれあい」、「父親会による移動動物園」が特徴的である。
- ・こども園としての子育て支援事業は、在園児のみならず、すべての子育て家庭を対象に平日の朝9時から午後5時まで毎日行っている。
- ・一時保育も実施している。
- ・学芸大学との連携協定は始まったばかりで、今後の経過を見守っていく必要がある。

★所感

- ・幼稚園の躰・教育を主とした目的だったが、一番強く感じたのは親に大きな問題点があるということであった。
- ・子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」でのNPOなどの活躍をみて、能美市では、子育て関係団体数がまだ十分ではなく、支え手となるグループづくりの支援が必要である、また、ボランティアグループなどと子育て支援センターとが今後さらに強く連携することが必要だと感じた。
- ・「のびすく仙台」などでの地域が一体となった子育て支援バザーの取り組みが素晴らしかった。